

(4) 前年度の学校評価  
ア 自己評価結果等

本年度の重点目標		<p>(1)学習評価、授業公開・「高校生のための学びの基礎診断」等を活用して授業改善を推進し、生徒の学びに向かう力を育てる。</p> <p>(2)生徒面談、アンケート、サポート委員会等を活用して、いじめ等の予防・早期発見に努め、生徒が安心して過ごせる居場所づくりを進め、生徒の絆づくりの環境を整える。</p> <p>(3)専門学科としての本校の教育活動の特色、魅力について校内で共通理解を図り、わかりやすい情報発信を工夫する。</p> <p>(4)職員の協働体制を確立し、業務の適正化を図るとともに、職員のメンタルヘルスの保持に努める。</p>		
項目(担当)	重点目標	具体的方策	達成度	評価と課題
PTAとの連携 (総務部)	参加しやすいPTA活動の工夫	<p>(1) コロナ禍を踏まえた行事運営の工夫</p> <p>(2) P T A研修会企画の充実</p>	A	<p>(1)桃華祭 PTA 企画として「SDGs 活動に参加して輪投券ゲット」及び「フォトスポット」を開催した。SDGs 活動は、生徒への啓発や保護者にも協力を得ることで PTA と学校が協働し、有意義な活動が行えた。具体的な活動成果は下記のとおりである。</p> <p>①フードバンク：大府市社会福祉協議会に提出</p> <p>②アイシティ eco プロジェクト：提携校として使い捨てコンタクトレンズの空きケースを回収（今後も継続）</p> <p>※「互いに学び、楽しくつながる PTA 活動」事業に応募</p> <p>(2)今年度は、携帯電話 SNS のトラブルについての防犯講話を東海警察署から講師を招聘し研修会を開催した。その他高 P 連関係の研修会の出席にも PTA 本部役員で分担し、参加していただいている。桃陵だよりで一部紹介していく予定である。今後も研修の充実に努めたい。</p>
防災組織 (総務部)	防災組織の充実	(1)防災マニュアルの活用	B	<p>(1) 6月に防災マニュアルを生徒に配付し、9月の避難訓練全貌の日シェイクアウトの実施について啓発している。当日の訓練では、避難時の生徒の真剣さが乏しいという評価を消防署よりいただいた。事前の啓発を徹底していく必要がある。また、避難訓練時の役割として消火活動に関わることを総務部以外の教員も担当し、災害発生時の行動に繋がることが必要である。防災教育を含めた訓練内容の充実が今後の課題である。</p>
読書指導 (総務部)	図書館利用の向上	<p>(1)落ち着いた読書環境の維持</p> <p>(2)図書館活動の活性化</p>	A	<p>(1)感染対策をしながら読書環境の維持に努めた。看護資料分類表示の見直しを行っており生徒への最適な図書提案が出来るようになった。</p> <p>(2)文化祭で図書委員による「文豪似顔絵&amp;作品名当てクイズ」が好評であり、その後の図書館来館者数増加に繋がった。</p>
学習指導 (教務部)	まなびに向かう力の向上	<p>(1)PDCA サイクルによる改善</p> <p>(2)学習習慣の定着</p>	B	<p>(1)学習マネジメントシートを活用し、よかった点・改善すべき点・改善方法等を各教科で検討し、学習指導に生かしている。</p> <p>(2)課題による学習習慣は定着していると思われる。課題以外の自主的な学びへの取り組みに課題が残る。</p>
進路指導 (進路指導部)	適切な進路情報の提供と学科に対応した進路指導	<p>(1)生徒の適性・意欲を考えた進路情報の提供</p> <p>(2)進学・就職に関わる情報の提供</p>	B	<p>(1)全体に向けては、各種ガイダンス・出前講義等で進路意識の向上を図った。個々の生徒に対しては、進路希望先に応じた面接・書類指導等を丁寧に行うことができた。</p> <p>(2)本科・専攻科ともに、時機に応じて適切な行事を計画・実施し、将来必要となる進学・就職に関わる情報提供を行うことができた。</p>
生徒指導 (生徒指導部)	基本的生活習慣の確立	<p>(1)身だしなみを整える</p> <p>(2)遅刻指導の工夫と徹底</p>	B	<p>(1)日常生活で身だしなみは注意をする場面が多々あり、今後も継続して職員全体で取り組む必要がある。生徒会を中心に、校則に関する生徒アンケートを取った。今後校則の改定に向け、保護者の意見も聞きながら進めていきたい。</p> <p>(2)担任・学年と連携を図り、段階的に指導することができたが、遅刻の数が減少まではならなかった。</p>
特別活動 (生徒指導部)	特別活動の充実	(1)学校行事の活性化	B	(1)昨年度に引き続きコロナの影響を受けつつも、学校行事を工夫し、実施することができた。
交流推進 (生徒指導部)	桃花校舎との交流推進	(1)桃花校舎との交流推進	B	(1)コロナの影響はあるが、各種行事で桃花と交流する機会を持つことができた。
学校保健 (保健部)	ヘルスプロモーションの実践	<p>(1)保健委員会活動の充実</p> <p>(2)教育相談の工夫</p>	B	<p>(1)保健委員として、体調不良を訴えるクラスメートへの対応、季節に合った健康課題をテーマに保健だよりを作成した。しかし一時指導が不十分な所があった。</p> <p>(2)学校生活に不適應を起こす生徒に対しより多くの教職員が関わりを持つことが出来るよう、サポート委員会の複数回開催、スクールカウンセラー等とする体制作りが大切である。</p>
環境美化 (保健部)	美化活動の充実	(1)美化活動の充実	B	(1)感染対策を意識した教室の清掃は実施できていた。廊下や階段の清掃、特にトイレの清掃については、今後も丁寧に実施してできるように監督する教職員の協力を経ながら全校生徒へ働き掛けていきたい。

ヒューマン ケア科	教育活動の工夫と充実	(1) 学びの基盤の形成 (2) 専門的学習の充実	B	(1) 1年生の大学等施設見学を10月に実施できた。幅広い学習に繋げていけるよう、社会人講師による授業を多く実施し、ボランティア講座、認知症サポーター講座、点字講座、口腔ケア講座等の実施となった。また、ボランティア活動への関心が高く通年ボランティアを継続して単位を取得した生徒が増えてきている。 2年生は、哉志の会に前向きに取り組み、それぞれの将来の方向性や校外実習への思いを述べることができ、続く校外実習は熱心に取り組むことができ、成長がみられた。 3年生の障がい者施設実習、保育実習は施設の協力ではほぼ全員実施できた。 (2) 秘書技能検定は前期後期に1・2年生が多数受験し、取得となった半面、ビジネス実務文書検定は希望者が減少し実施を見送った。課題研究発表会では、個々の課題に対し真摯に取り組み、発表をすることができた。
衛生看護科	教科指導の充実と豊かな人間性を育む指導	(1) 心身の健康と学びに向かう力の育成 (2) 将来の医療職の担い手として、看護の心や使命感の育成	B	(1) 心身の健康面については、日頃から自己管理ができるように生徒に働きかけてきており、多くの生徒が健康管理はできるようになっている。学びに向かう姿勢については、自らの力で答えを導き出せたり、説明できるようになってきている。今後はそれを活用できる、応用できる、そして行動へと移していくことができる力を育てていく必要がある。 (2) コロナ禍ではあったが、昨年度よりも病院での実習を行うことができた。学内での学習や臨地実習などいろいろな場面を通して、人間性と感性を育み、質の高い看護師になることができるよう働きかけていくことが必要である。
第1学年	基本的な生活習慣の確立と基礎学力の向上	(1) 礼儀と節度ある行動の励行 (2) 基礎学力の向上	B	(1) 明るく挨拶をすることができた。毎日の清掃活動にも積極的に取り組むなど、学校生活に慣れるにしたがって、少しずつ次に何をすべきか考えて行動できるようになってきた。 (2) 普通科目、専門科目ともに小テスト、実技テスト、定期テストを目標にコツコツと学習に取り組む生徒が多くなってきたが、記憶するだけでなく、自ら考える姿勢をもっと育てていきたい。
第2学年	学校生活の充実	(1) 日常的な学習の確立 (2) 行事、部活動への積極的な参加 (3) 進路指導の充実	B	予餞会に向けてクラス企画に取り組んでいる。コロナ禍の影響でアルバイトをする生徒が増加し、部活動に登録している生徒が減少したが、登録生徒は学業と部活動を両立して頑張っている。 ヒューマンケア科は新3年生への準備期の自覚が出来てきた様子で、自主的に居残り学習を行い、進路実現に取り組んでいる。 衛生看護科については、長期の実習に向け不安が強かったが実習後も落ち着いた学校生活を送り、新3年生に向けて日々の学習に取り組んでいる。
第3学年	進路目標の実現	(1) 進路指導の充実 (2) 専門技術の習得のために、自主的に学習できる資質の育成	B	(1) ヒューマンケア科は、全員希望の進路に進むことができたが、進路決定後の学校生活の指導に工夫が必要である。 (2) 衛生看護科は、意欲的に学習に取り組むことができた。専攻科の進級に向けて不安のある生徒もいるが、進級面接等で改めて目標を確認でき前向きに取り組んでいる。
専攻科	進路実現	(1) 国家試験対策の実施 (2) 就職・進学指導の充実	B	(1) 各クラスにおいてST等利用し、国家試験に向けての学習時間を設けて学習を実施。また年間を通じて計画的に模擬試験を実施し、試験結果をフィードバックしながら学習指導を行った。 (2) 専攻科1年生は6月に対面で実施した修了生との懇談会や外部講師からのガイダンスを企画し、進路を考える機会とした。インターンシップや説明会に参加させ、自身の進路選択を行えるよう担任を中心に個別に指導を行った。専攻科2年生就職や進学に向けての取り組みを個別に行えるようサポートし、就職先の内定、進学先の決定に繋がっている。
学校関係者評価を実施する主な評価項目		(1) 授業改善が進み、生徒の学びに向かう力を育てることができたか。 (2) 生徒が安心して過ごせる場所としての環境を整えることができたか。 (3) 学校の特色・魅力についてわかりやすい情報発信ができたか。 (4) 職員の協働により業務の適正化が図れ、職員のメンタルヘルスの保持ができたか。		

#### イ 学校関係者評価結果

学校関係者評価項目	(1) 授業改善が進み、生徒の学びに向かう力を育てる。 (2) 生徒が安心して過ごせる場所としての環境を整える。 (3) 学校の特色・魅力についてわかりやすい情報発信をする。 (4) 職員の協働により業務の適正化が図れ、職員のメンタルヘルスを保持する。
学校関係者評価	(1) 学習アンケートの結果からも授業内における理解はおおむねできている。家庭学習の習慣が身につけていない生徒も一定数おり、学びに向かう姿勢を育てる必要がある。 (2) 担任による面談、年2回実施するいじめアンケートや適宜行われるサポート委員会がよく機能し、生徒の問題解決や生徒の絆づくりができている。 (3) ホームページ等を活用して体験入学、特別活動、社会人講師授業、出前授業などの掲載を行ったり、戴帽式や哉志の会など本校特有の学校行事を地元メディアや市広報聴講への情報提供を行ったりすることができた。

	(4)「在校時間等の状況記録」結果による時間外勤務の実態把握や、安全衛生委員会を毎月開催したり、定時退校日を設定したりするなど、職員のメンタルヘルスの保持にさらに努めて欲しい。
学校関係者委員会の構成及び評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・構成 学校評議員6名（PTA会長を含む）</li> <li>・評価時期 7月、11月、2月</li> </ul>

(5) 学校経営管理上の問題点等

- ア 生徒の実態をよく理解し、必要な学力の定着を図ると共に、自らが主体的に学ぶ態度を育成する必要がある。
- イ 生徒が興味関心を持ちながら、高度な専門知識を理解しやすくする授業改善に取り組む体制づくりをする必要がある。
- ウ 授業や特別活動等でICTを活用するために、教員のICTに関する知識や技術の向上を更に図る必要がある。知識・技術の向上には多くの時間がかかるため、より多い回数の教員向けの実習・研修を行う必要がある。
- エ 生徒同士の人間関係や家庭での問題を抱える生徒は徐々に増加傾向にある。生徒への支援はサポート委員会などを通して現在のところ対応できているが、更なる体制の強化が必要である。
- オ 本校の教育活動の特色や魅力についての新たな情報発信として、新しいホームページが更新された。一部の教員による情報発信は行われているが、より多くの教員が情報発信できる技術を身に付けていく必要がある
- カ 行事や活動にはコロナ禍において制限されたことで継承されていない状態になっているものが多く存在する。生徒間で行われてきたものも教員の指導を入れたほうが良いことや、教員間においても十分な伝達できていないことからきめ細やかな計画が必要となる。
- キ 教員の業務・学校行事の精選・見直しと言われる中で、精選・見直しをすることなくマンパワーによって続けているものがある。また、行事や実習などが、急に変更を余儀なくしなければならなくなったときに過度に教員に負担がかかり、健康を害する危険性があるほど在校時間が多くなってしまった教員もいる。身体的にも精神的にも負担が大きくなるように業務の効率化と精選・見直しを行う必要がある。